

平成十九年度 文学部国文学科

卒業論文 題目

池田三枝子ゼミ

影山輝國ゼミ

——古代の采女に関する一考察——

秋葉清香 草薙劍考

安藤祐子 ヤマトノヲロチ論

——古代蛇神話における特異性——

桂三矢子 鍾繇とその書

磯西真里恵 大國主神研究

板野由佳 異人研究——古代文学を中心として——

菅原彩乃 愛新覺羅溥儀

伊藤知里 大伯皇女論

田村美波 楊貴妃と玄宗

大久保利恵 アマテラス研究

中祐子 孔子の生涯

柿田朋子 古代の占い——万葉集を中心として——

榎山幸子 三國志演義の成立

河西彩子 但馬皇女研究

橋本愛由美 孫武と孫臍

神川詩織 狭野茅上娘子・中臣朝臣宅守贈答歌論

佐藤亜美 中国の同性愛について

齋藤裕子 磐姫皇后研究

與田麻理絵 初唐の書家と蘭亭序

清水典子 但馬皇女論

——褚遂良の筆法を中心に——

原田友紀 万葉集における天武天皇歌の研究

三浦奈緒 黄泉考

村越あおい 車持千年論

栗原敦ゼミ

室山沙織 斎宮論

柳田香織 人麻呂歌の世界

村上春樹研究——「海辺のカフカ」「アフ

渡部仁子 吉備津采女挽歌論

ターダーク」から見えてくるもの——

大久保法子

村上春樹論

大城亜里沙

赤川次郎研究

——文章表現法とその背景——

小林可奈

『深い河』研究

佐々木理乃

都市伝説の研究——宮崎駿の作品から——

塩原智美

宮沢賢治研究

芝間園恵

新美南吉研究——南吉の抱えた孤独——

高谷恵都子

芥川龍之介と児童文学

谷口三恵

金子みすゞの心に響く詩

——雑誌などでの評価を手がかりに——

土橋知子

宮沢賢治研究——童話の中の音楽——

土井菜津美

長野まゆみ論——少年はいつもふたり——

榎原由起子

宮沢賢治研究——狐像について——

西村千文

内田百閒論

春野望

綾辻行人の世界

——館シリーズにおける衝撃の結末——

本間紗和子

太宰治研究

——女性独白体作品を中心に——

松丸麻美

宮沢賢治研究——童話を彩る宝石——

宮武麻衣

嶽本野ばら

——ファッションから見る少女像——

門馬史織

中島敦研究

山崎久美子

谷川俊太郎研究

——ひらがな詩をめぐって——

結城玲子

江戸川乱歩研究

——大正と現代の共通項——

田嶋彩香

宮沢賢治と宗教

——理想と現実の狭間にて——

山口みなみ

向田邦子における「家族」の見せ方の変移

山田由加

あさのあつこ研究

——「バッテリー」を中心として——

近藤みゆきゼミ

大野洋美

『百人一首』論

——歌人と出典についての考察——

岡山紋子

『源氏物語の女達』

——人物論について——

粕谷知世

『後拾遺和歌集』恋部についての研究

木村真澄

伊勢物語で学ぶ恋愛

——現代の視点から——

草野優子

『古今和歌集』の植物

工藤瑠意

——四季部を中心に——  
『古今和歌集』の恋歌

鈴木美穂

——「水」と「月」——  
『古今和歌集』における花鳥表現

本田文香

——四季歌と恋歌の比較から——  
『とりかへばや物語』論——男性歌・女性

三谷優香

歌の問題を中心として——  
女流歌人「伊勢」についての考察

吉越香織

——三代集・紀貫之との比較から——  
宇治十帖論——薫の和歌・匂宮の和歌との

渡邊綾美

比較から——  
源氏物語 幻巻論

佐藤悟ゼミ

石坂唯

山崎美成の研究

川田央

見立ての研究——画題の視点から——

小島さちえ

初期俳諧の研究

——『滑稽太平記』を中心に——

竹腰恵利子

滑稽本の研究

生井沢佳奈

鹿島紀行の研究

野口めぐみ

地獄合戦物の研究——『小夜嵐』と『義経

林原由依

地獄破』の比較——  
江戸前期歌舞伎の研究

増田結花

武道伝来記論

棚田輝嘉ゼミ

安宅智恵

私たちがいた場所——恩田陸が描くノスタ

大矢麗葉

ルジーの世界——  
石田衣良論——僕はここに——

岡田亜衣子

異常と狂気——江戸川乱歩文学における狂

岡田由香

気を巡って——  
現代へ伝える古の物語——芥川龍之介が魅

川上麻美

せられた今昔物語の世界——  
あなたがいるから苦しくて——宝塚歌劇・

菊池慶子

柴田侑宏が描く愛のかたち——  
山田詠美論

黒川圭子

——少女が女性に変わる時——  
5才児とその仲間たちの1990

小林真美

2007——埼玉県春日部市在住——  
あの世の知り合いへ

小松清香 — 湯本香樹実が描く老人と子供 —  
消える境界線 — いしいしんじが描くふた  
つの世界 —

渡部愛

— 赤糸で縫いとじられた少女 —  
維新の描く死のサイクル  
— 殺し、生かすことの意味 —

小山景子 宮部みゆきの描く世界

小野寺舞

BLの命題 — 小野塚カホリ『LOGO  
S』をめぐって —

庄司愛里 — 現代の魅力、時代の魅力 —  
それでも僕らは…… — 成井豊が描く日常  
とファンタジー —

桑名真弓

オノマトペ研究 — 少年少女漫画における  
オノマトペの差違について —

新海好子 寺山修司の父母地獄

— 短歌に描かれた家族像 —

谷奥麻那美 Freeな女たち — 江國香織文学におけ  
る女性の描かれ方 —

福嶋健伸ゼミ

沼田麻衣 浜崎あゆみとAIにおける人物分析

伊藤静香

「千円からお預かりします」と店員は本当  
に言っているのか

松澤美帆 夢は真実になる

— 100年前に見た夏目漱石の夢 —

— コンビニ六十店舗とファミレス三十  
店舗で千円札を出した結果 —

三浦茜 少女漫画からみる日本女性の恋愛観

上杉奈穂

接頭辞「ドン」「ガン」の違いについ  
て — 「ドン無視」と「ガン無視」の使  
い分け —

宮弘子 科学技術の心得

— 海野十三の夢見た世界 —

大沼郁恵

山形県寒河江市における方言調査  
— 「おだる」の意味は「折る」と辞書  
に書いてあるが「紙をおだる」と言うだ  
ろうか? —

村松あずさ しょせん地球は丸くて

— 乙一の語る世界 —

森下奈々 寺山修司論

永原良子

ヘルマン・プラウト著『日本語読本』における「いく」と「ゆく」の違いについて

——明治期の実態調査——

恩田千恵

芥川作品における助詞の用法

佐伯恵

新聞における敬語表現の変遷

篠早織

泉鏡花作品における色彩表現について

前田笑里

近代文学作品と白秋の詩でルビに使い分けがあるか？

杉山亜也子

群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）における方言文末詞の研究

吉見真理子

フツアション雑誌における若者ことば  
オノマトペの独創性と使われ方について

西崎朱美

テレビドラマにおける若者ことばの使用と実態についての研究

渡邊文子

——児童文学、漫画を題材として——

野島幸子

式亭三馬作品における感動詞の位相について

牧野和夫ゼミ

海老澤容子

「孟蘭盆経私」の注釈書の一展開

福田聡美

栃木県さくら市における方言文末詞の研究

大原香奈子

源義経像への評価の揺れ

宮崎亜砂実

千葉県銚子市西部方言の研究

——近代の義経評価から——

池上夕帆

北海道中空知における程度表現の研究

小木裕美

『平家物語』の平重盛について

山内博之ゼミ

「孟蘭盆経私」の註釈に関する研究

安宅裕佳

動詞カケルの多義構造に関する研究

湯浅茂雄ゼミ

飯島奈津季

「テアル」の意味・用法に関する研究

相沢真紀

少年漫画における役割語の研究

石川千暁

「ニギル」と「ツカム」の使い分けに関する研究

大久保薫 形容動詞の連用形に関する研究

——「くで」「くに」について——

小野友理香 長野県中信地区・南信地区の方言に関する研究

研究

川上摩里子 「行く」「来る」の意味・用法について

櫛田有紀 「恐ろしい」の意味・用法に関する研究

——「怖い」「すごい」との比較を中心に——

佐久間陽子 強調を表す語「すごい」の意味・用法に関する研究

する研究

佐々木舞子 「舞」と「踊」

——類似表現の違いと使い分け——

佐藤深香 「です」と「だ」の意味・用法、使い分け

について

鈴木さと美 接頭語「激」の意味・用法

高橋海 ウナギ文についての研究

玉田祐子 無助詞文に関する研究

——シナリオデータを中心として——

中野真樹子 「けど」「のに」の意味・用法に関する予

測文法的研究

中村志乃 Nグラム統計の有用性に関する一考察

——日本語学習者とネイティブスピーカー

1の発話の分析を通して——

久岡綾乃 複合動詞の一考察

平間俊恵 ブログにみる縮約形

増沢菜摘 「など」に関する一考察

松浦南 映画のチラシにおけるキャッチコピーの言

語表現について

矢島沙代 若者語「やばい」に関する一考察

梁瀬ゆり 「だ」「である」の使い分けについての一

考察

脇谷奈那 飲食店の命名に関する研究——焼鳥店、焼

肉店、とんかつ店を中心に——

小宮山真由 「あらかじめ」と「まえもって」の使い分

けに関する研究

近藤寛子 J-POPにみられる人称代名詞に関する

研究

——「あなた」「きみ」を中心に——

前野さや香 企業キャッチコピーに関する一考察

杉山育 学習環境と発話能力の関わりについて

——オーストラリアの日本語学習者を例

に——

原茉莉子 劇団四季の日本語歌詞分析——ブロード

ウェイの英語歌詞と比較して——

渡辺守邦ゼミ

天野瑠美

黄表紙の桃太郎

磯部早穂子

雨月物語の研究

岩崎恵理子

狐の子別れ文芸考

尾崎友香

良寛さんの人間像

羽根沙緒利

陰陽師・蘆屋道満の研究

渡邊絢美

牡丹燈籠の軌跡

和田朋子

『世間胸算用』の研究

——「吉備津の釜」を中心に——

——自然のままに生きた人——